

学 校 別 力 目 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	＜保護者＞ 学校は、子供たちの学力の定着、向上のために授業改善に取り組み、分かりやすい授業を行っている。 90% ＜教員＞ 年3回の授業観察、自己申告の面談において、自己評価カードをもとに管理職と協議し、指導法の改善に取り組んでいる。 100% ＜平均＞ 95.4%	4: 90%以上	【取組】 ○年3回の授業観察・自己申告面談のほかに、日常的に授業を観察し、適宜授業改善のための指導を行っている。また、学年単位で授業準備をし、授業を見合って授業改善を行っている。 ○学習内容によって「分かる」「楽しい」の視点に立って個別に取り組める授業を工夫している。 【改善策】 ○児童に教員が向き合う時間を確保するための教職員の業務適正化等に取り組んでいるが、まだ改善の余地がある。校務を精選し、よりウェルビーイングを高めるようにする。	A	7	○先生方の連携を感じ、児童との関わり方もとても温かく感じている。 ○校務を精選するとともに、区費の会計年度任用職員や補助員等を活用し、児童に向き合う時間を確保してほしいと思います。 ○クラスによってバラバラな授業を行うのは、児童にとって悪い環境なので、学年で話し合って授業を進める取組は良いことだと思う。 ○多クラス学校の中で、全ての教員の力を向上させようと工夫されている学校の取組には、頭が下がります。成長途上にある先生はそういう段階だと認め、学校全体で成長できるようにサポートされるのは素晴らしいです。 ○先生方が授業力向上に加えて、個に応じた学習の工夫に取り組まれているのは素晴らしいと思います。 ○先生方は、仕事とはいえ本当に大変だと思いますが、こどもたちのために引き続きよろしく願いいたします。				
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3: 85%以上					B	2		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: 80%以上							C	0
		④年3回の授業観察、自己申告の面談において、自己評価カードをもとに管理職と協議し、指導法の改善に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:「80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1: 80%未満								
		た自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い 支 き 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					4	＜児童＞ 学校が楽しく、友達と仲良く過ごしている。 96.6% ＜保護者＞ 各教員は一人一人のこどもにとって、安心できる、温かい雰囲気の学級づくりに取り組んでいる。 89.9% ＜平均＞ 93.3%	4: 90%以上	【取組】 ○校内特別支援委員会や生活指導夕会等を開催し、配慮が必要な児童への指導体制を構築している。 ○スクールカウンセラーによる5年生の全局面談実施と「子どもの心サポート月間」では、「学級集団調査(WEBQU)」を含む年3回以上の「いじめに関するアンケート」を全学年で行い、児童の心と友人関係の状況把握に努めた。 【改善策】 ○児童・保護者がより安心して相談できるように、今後もスクールカウンセラーや子ども家庭支援センター等との連携を密にし、指導・支援していく。
	②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。		4	3: 85%以上	B	2							
	③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4	2: 80%以上			C	0					
	④配慮が必要な児童への指導体制の構築、校内で情報共有するために生活指導夕会、特別支援委員会を定期的に実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4	1: 80%未満					D	0			
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 ぶ 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	＜児童＞ 学校のきまりを守り、安全に生活している。 92.5% ＜教員＞ 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指してICT機器を効果的に授業で活用している。 93.9% ＜平均＞ 93.2%	4: 90%以上	【取組】 ○毎月の安全指導、安全点検を適切に行い、修繕が必要となった箇所については、管理職と事務主事、用務員が連携を図って即日作業にあたることができた。 ○避難訓練については、年間を通じて計画的に実施するとともに、現状から必要に応じて見直しを行うことができた。 【改善策】 ○タブレット端末の学習目的以外の使用がごく一部見られた。大田区教育委員会から貸与された目的を確認するとともに正しい使用についての指導が今後必要である。	A				7	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	3: 85%以上		B			2				
		③学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指してICT機器を効果的に授業で活用している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	2: 80%以上						C	0		
					1: 80%未満									D
学 地 学 校 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る		地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		＜保護者＞ 学校は家庭、地域とのかかわりを深める教育活動(地域の人材を活用した学習や保護者ボランティアの参加等)に取り組んでいる。 79.6% ＜教員＞ 学校支援地域本部と連携し、地域力を生かした特色ある教育活動を推進している。 100% ＜平均＞ 89.8%			4: 90%以上	【取組】 ○ちせついきいき応援隊との連携を図り、学習活動全般においてボランティアの方々のご協力をいただき、活動を充実させることができた。 OPTAの方々の毎日の登下校の見守りにより、池雪小学校の全児童の安全を確保することができた。 【改善策】 ○今後も、可能な限り家庭や地域とかかわりを深められる教育活動に取り組んでいく。	A		
	②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	3: 85%以上	B		3						
	③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	2: 80%以上				C	0				
	④学校支援地域本部と連携し、地域力を生かした特色ある教育活動を推進している。		4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	1: 80%未満								D	0

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す